

総務省インターネット政策懇談会第9回

NGNにおけるIPv6提供方式に関する検討結果

2009年2月16日

社団法人 日本インターネットプロバイダー協会

NTT東西とJAIPAの事業者間協議 検討の経緯

- 目的
 - NTT東西のフレッツ光ネクスト(以下NGN)におけるIPv6インターネット接続サービスを実現するために、ISPが方式決定するための選択肢としての方式(仕様)の確定
- 経緯
 - 総務省のIPv6研究会、NGN認可条件、インターネット政策懇談会WG取りまとめ報告などに記載されている通り、NTT東西とJAIPAで2008年4月よりNGNにおけるIPv6インターネット接続サービスを実現するための方式について検討を重ね、1月15日にとりまとめを行なった。(この間、主たる会合のみで20回実施)
 - これに基づき、2月6日に事業者向け説明会を実施した。
- 概要
 - 協議の位置づけとしては方式(仕様)の確定のみ。覚書や契約書など当事者同士を拘束するようなものではない。
 - 2010年末までにNGNにおけるIPv6インターネット接続サービスを実現するために、ISPが2009年4月にNTT東西に対して相互接続の申込を行なうに際してのISP共通の標準的仕様の一つとして、2008年4月1日に総務省IPv6研究会でJAIPAが技術的解決策として提案した3案のうちから第2案について検討を実施。
 - この協議は他の方式を否定するものではなく、他方式の検討についてISP及びNTT東西を拘束するものではない。実際のサービス提供方式は、各ISPが自主的に判断する。
 - 関連してIPv4 NAT(LSN,CGN)についても仕様の検討を行なった。

事業者向け説明会の概要

- 2009年2月6日金曜日午後には都内で実施
- NTT東西とJAIPAからそれぞれ説明会の案内状を送付。JAIPAはホームページ上の告知も実施。対象は
 - NTT東西からはフレッツで相互接続している事業者
 - JAIPAからは会員外も含めたISP事業者、IX事業者
- 当日全国から72社 118名が参加
- 説明会ではJAIPAとNTT東西で協議を行ってきた案2の他に、一部のISP事業者から案3をベースに作成した新しい提案(案4)についても説明が行なわれた。
- 参加者からは主に案4の仕様などについて積極的な質問が多数寄せられた。